

まじないの世界



柳之御所遺跡のまじないのようす

まじないは、神仏等をたよって、予期せぬ災いからまぬがれようとしたり、また願いをかなえようとしたり、さまざまなことを祈ります。12世紀の時代のまじないは、庶民生活の全般にわたって密接な関係にありました。遺跡からは、まじないに関わる多くの遺物が出土しています。これらの遺物は仏教、神道、陰陽道などに基づく祭祀儀礼に関わると考えていますが、具体的な用途や機能には不明な点が多くあります。

もともと祭祀のようすがわかるもののひとつは、輪宝と榧、かわらけが一緒に出土した土坑です。これは円形の輪宝の中心に榧が地中に打ち込まれたように出土し、その上面にかわらけが置かれて埋められたものです。密教に関わる地鎮遺構の可能性が指摘されています。このほかにはかわらけの底部が穿孔され、まとまって出土した遺構もあります。

木製のまじない道具

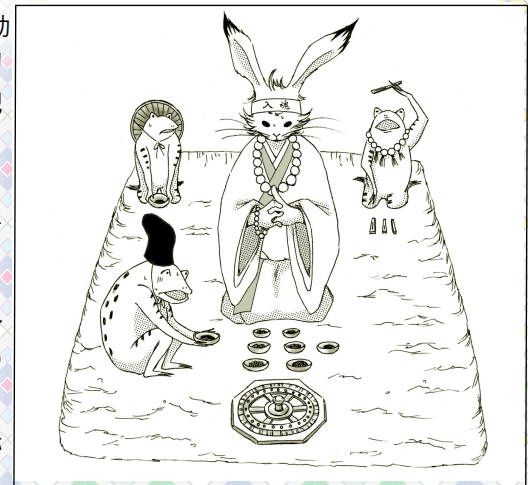
祭祀具は木製品が多く見つかっています。形代と呼ぶ人や動物、道具などをかたどった木製品は古代から作られているものです。これらの形代は全国的にも同様の形態のものが見つかっており、平泉特有のものではなく、全国的に類似した祭祀が行われたと考えられます。柳之御所遺跡から出土したものは、人、刀、鳥などがあります。平面的なものが多いですが、木偶のように立体的なものも出土しています。

また、呪符や笹塔婆といった文字を記した木製品も多く出土しています。これらには「南無」や「大般若」といった言葉や、祓いに関わる言葉が墨書されています。

このほかに、木製の宝塔があります。完形のもの1点ですが、一部のみの破片も出土しています。五輪塔と似た形態で、部位ごとに別々に作られていることがわかります。これらの遺物は柳之御所遺跡内の祭祀などを推測できる材料ですが、このほかにも儀礼や祭祀に関わると考えられる遺構があります。当時の政治行政といった様相だけでなく、柳之御所遺跡の性格を考える重要な手がかりになります。



宝塔



底部穿孔のあるかわらけ



輪宝と榧とかわらけ

火舎と花瓶

深さ1.41mの土坑から鉄製の火舎と花瓶が出土しました。火舎は、人の顔の形を表現した脚が3脚付き、上部に吊り手が2個あります。花瓶は本体に唐草文、蓮弁文、脚に蓮弁文があります。いずれも大型のものです。これらは、絵巻物などで使用されているようすが描かれており、実用品というよりも仏具の一つと考えられます。



火舎



花瓶